

地蔵沢

L 平

一九八二年八月二十九日

小深谷沢の遊行終了後、尾根からトラバース気味に下降する。すぐ沢に降りたが、水流はない。ただ所々に水たまりがあって、サンショウウオが泳いでいる。完全に水が溜れきってしまふこともないようだ。

しばらく下ると沢に水が出てきて、ナメが出てくる。かなり傾斜のあるナメである。左俣から小沢が合流する。すぐ下にはF6二段五びがある。ブツシュにつかまって下る。下もナメである。

沢が左へ曲がると二俣である。水量は、左俣の方が倍くらいもある。

ここからF1まで、所々土砂で埋

まっているものの、ずっとナメが続く。

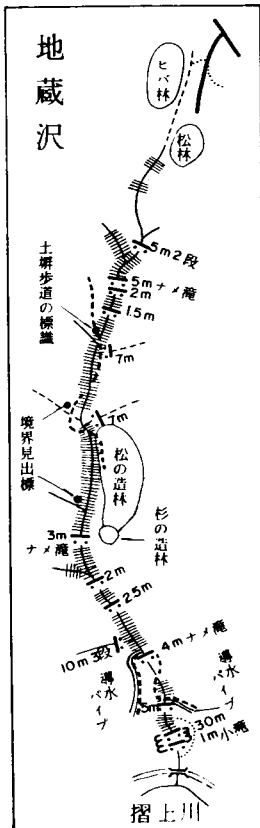
F5五びナメ滝は、急だが快速に下れる。小滝を越えて更に下って行くと、右岸から小沢が合流する。沢の形は立派だが、水量は極少である。この合流点に「土塀歩道」と書かれてた宮林署の標識がある。気をつけて

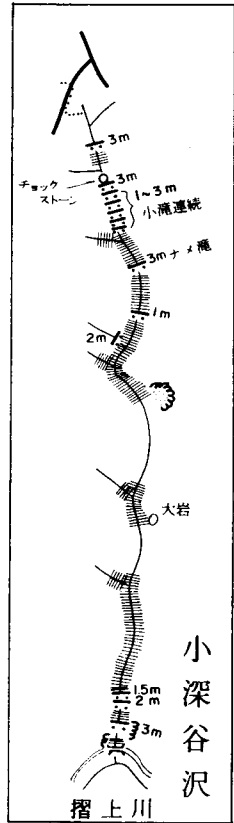
みると、踏跡が右岸山腹を下ってきて、ここで沢を渡り、左岸ぞいに続いている。

再びナメを下って行くと、左岸から七びの滝をかけてカレ沢が入り、そのすぐ先で今度は右岸からカレ沢が入っている。この合流点には、宮林署の境界見出標があった。

このすぐ下から、左岸は松の造林地となる。そのすぐ下でも、一本右岸から小沢が入るが、ここにも宮林署の境界見出標があった。

松の造林地が杉になって、造林地





も終わる所に、F4ナメ滝三びたがある。更に小滝を二つ越えてゆくと、F3ナメ滝四びたがあり、右岸をクラミングダウンする。左岸なら簡単に下れるのに、ちよつと難しい所を通ろうとするのも、また楽しい。この滝の上に、農業用水だろうか、この沢の水をとっている取水口があった。右岸を導水路が通っている。

F2五びた。この滝の上からもビニールホースで取水している。木を使って右岸を降り、左岸にトラバースして下る。

すぐにF1三〇びた。ザイルを二本

用意してきていたから、アップザイルレンにも降りられたが、ザイルを出すのも面倒なので、左岸を捲く。挑んでいけば、空中懸垂になったよ

小深谷沢

小深谷沢より入渓。フェルトワラジを着ける。すぐにF1三びたヨ状ナメ滝が現れる。滝の上もナメ。更に小滝が2つ続いて、出だしは上々である。

うだ。水量が少ない(この沢にはかなりの水量があるが、途中で取水されてしまう)ので、あまり大きく感じられないが、茂庭には珍しく大きな滝である。

すぐに国道三九九号線の橋に着き、道路に上がって、地藏沢の下降は終了。(記)

「タイム」 下降開始(九:一〇) ↓ 終了(二:一五)

L1
一九八二年八月二九日

クロスズメバチの巣があった。この前の大雨で土砂崩れが起き、巣が露出している。そこをスズメバチに襲われたのだろう。弱りきった二、三頭のスズメバチがうろつき、巣の